

# 第2期 神崎町

# まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略

人口減少が全国的に大きな問題になる中、神崎町が永続的に存続していくためには、住民をはじめ多くの関係者がこの問題を真剣に捉え、どうしていくべきかを話し合い、行動に移していく必要があります。総合戦略は、こうした問題意識を共有し、子どもや孫たちの笑顔を思い浮かべながらワクワクするまちづくりを行っていくための取組を総合的にまとめたものです。随時戦略をアップデートしながら、「考え、行動する」神崎町を作り上げていきましょう。

## 人口ビジョンの概要

### (1) 策定の背景

わが国における急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目的として、まち・ひと・しごと創生法が2014年11月に制定されました。

また、その目的を達成するため、国は、人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を、同年12月に閣議決定しました。

その後、2019年6月に「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」を閣議決定し、継続的で効果的な人口減少対策を講じていくことを支援していくこととしています。

### まち・ひと・しごと創生基本方針 2019（4つの基本目標と地方創生版・三本の矢）

1. 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする
2. 地方への新しいひとの流れをつくる
3. 若い世代の結婚・出産・子育て希望をかなえる
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

第一期

#### 【地方創生版・三本の矢】情報支援、人材支援、財政支援

#### <4つの基本目標>

#### ◆従来の枠組を維持しつつ、必要な強化

- ・「地方への新しいひとの流れをつくる」の取組の強化
- ・「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、子ども・子育て本部等と連携

#### ◆「人材を育て活かす」「誰もが活躍する地域社会をつくる」観点を追加

#### ◆新たな視点に重点をおいて施策を推進

- ・新しい時代の流れを力にする（Society5.0等）、人材を育て活かす等

#### <地方創生版・三本の矢>

#### ◆従来の枠組を維持

#### ◆地方創生関係交付金については、必要な見直しを実施

第二期

まち・ひと・しごと創生法第10条において、市町村は、区域の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画を定めるよう努めることが求められています。

本町においても、将来に向けた人口減少対策を重要な課題としてとらえ、「第2期神崎町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」を策定し、人口減少対策を推進していくこととします。

### (2) 「神崎町人口ビジョン」の位置づけと計画期間

「神崎町人口ビジョン」は、神崎町における人口の現状分析を行い、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。

「神崎町人口ビジョン」の対象期間は、2060年までとします。

# 神崎町の人口問題の所在

## 人口推移と将来予測から見える問題

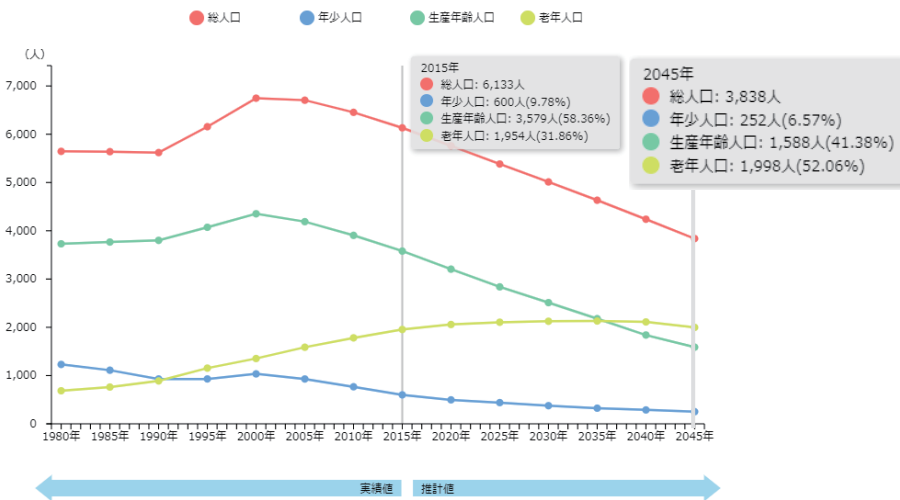
### ① 総人口の推移と予測

2015年の国勢調査結果を見ると、2010年比で総人口は321人減の6,133人となっています。

総人口を示す赤の折れ線グラフは今後も減少傾向で推移していくことが予測され、今から約25年後の**2045年**

には**3,838人**になることが予測されています。

折れ線グラフを見ると、赤色の総人口と緑色の生産年齢人口がほぼ比例して減少傾向で推移していき、黄緑色の老年人口がやや増加傾向で推移していくことが見込まれています。この推計では、**2045年に高齢化率はついに50%を超える**ことが見込まれています。



【出典】

総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

### ② 人口ピラミッドから見る課題

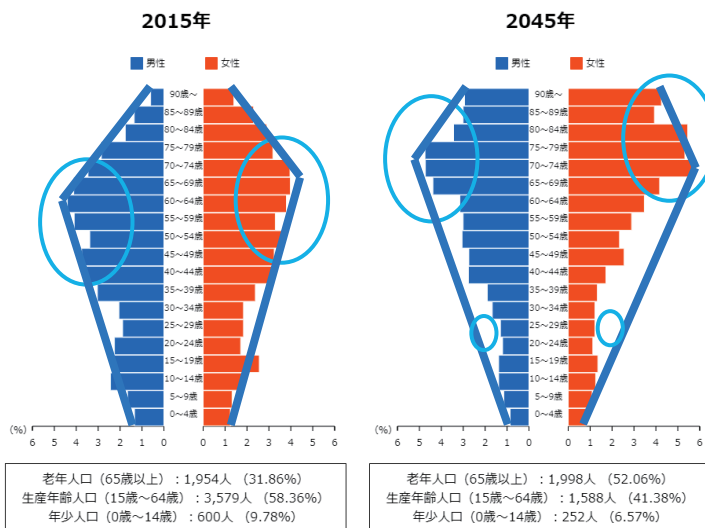
神崎町の最新の国勢調査結果と、最新の推計結果を人口ピラミッドで表したのが下図です。

30年間でどう推移するかを予測したものですが、男女ともに人口ボリュームゾーンは65歳以上の高齢者になっており、**ほぼ逆三角形の人口ピラミッドになる**ことが予測されています。また、子どもの数も激減することが予測され、**0～14歳の年少人口は半減以上**になることが予測されています。少子高齢化が30年間で大幅に進むことが

見込まれます。これとともに、2045年の人口ピラミッドでは、20代が少なくなっており、子育て世代の極端な減少が見込まれています。

少子化が進むことにより幼稚園や保育園、学校施設の統廃合が進むことが予想され、生産年齢人口の減少に伴い空き家が目立つようになり、高齢者のひとり暮らしや夫婦のみの世帯が増加することにより自治機能の低下が懸念されます。

子どもの数を増やすことが神崎町の存続に欠かせない課題であり、そのためには、**特に子育て世帯の増加を強力に推進していくことが必要**です。



【出典】

総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

### ③ 人口増減の推移から見る課題

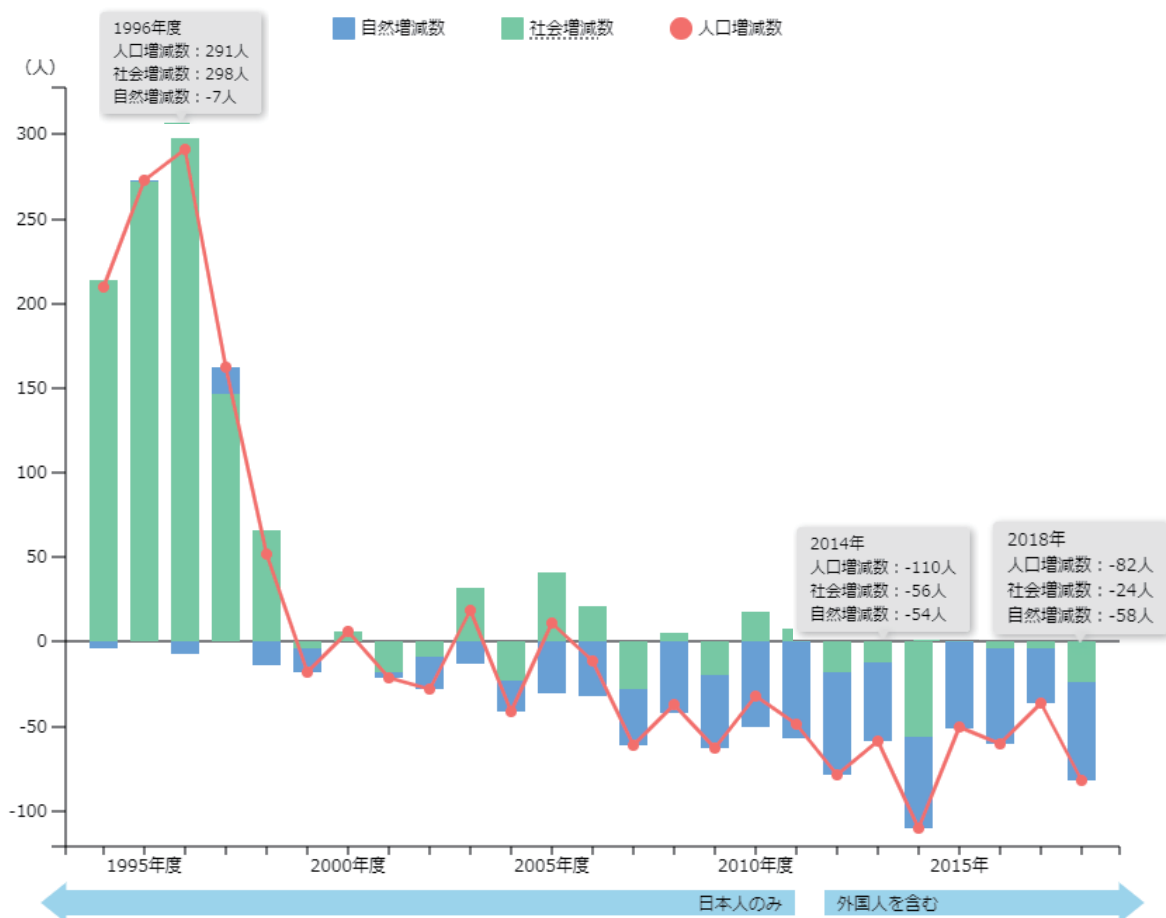
自然増減・社会増減の推移を見ると、本町の大きな課題が見えてきます。

1990年代の社会増は年間300人近くになった年もあり、グラフで表示されている1994～1998年度の5年間で社会増は1,000人を超えています。住宅団地の開発に伴う人口増加によって短期間に社会増が進行しましたが、その後増減を繰り返し、近年は社会減で推移しています。また、自然増減については2001年度から一貫してマイナス傾向で推移しています。

今後、新たな大規模住宅開発が見込まれない中で、1990年代のような大幅な社会増を見込むことは困難です。一方で、本町の合計特殊出生率は1.27で県内でも低く、生産年齢人口も減少していく中で自然増を見込むことも困難です。

2018年の転入数は208人、転出数は237人となっています。転入元・転出先の上位として成田市、稲敷市、香取市、佐倉市などとなっており、近隣都市部との移動が多いことがわかります。

大規模な住宅開発が見込まれないのであれば、小規模だけど良質な移住を促進する住宅環境の整備や、空き家の活用などが重要であり、子どもを産みたい人が安心して出産できるための環境整備がより一層重要になってきます。



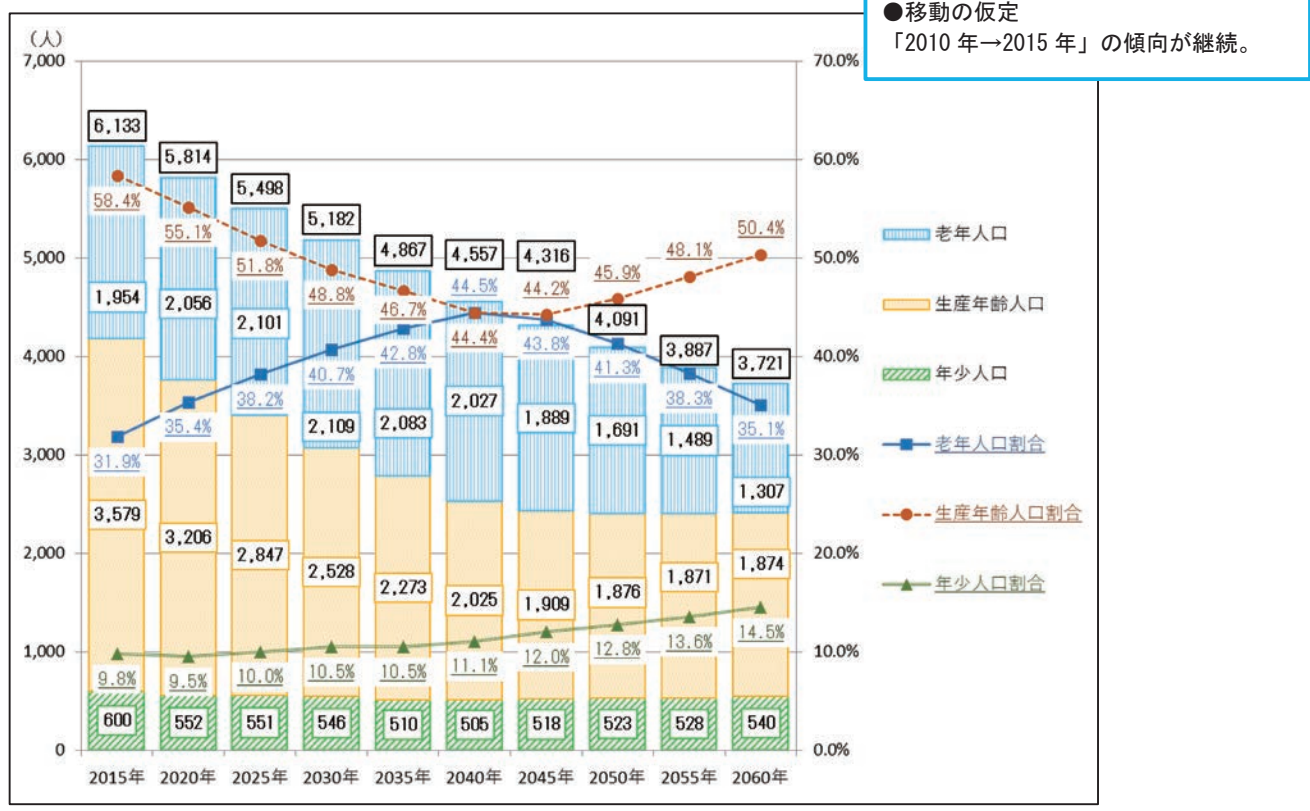
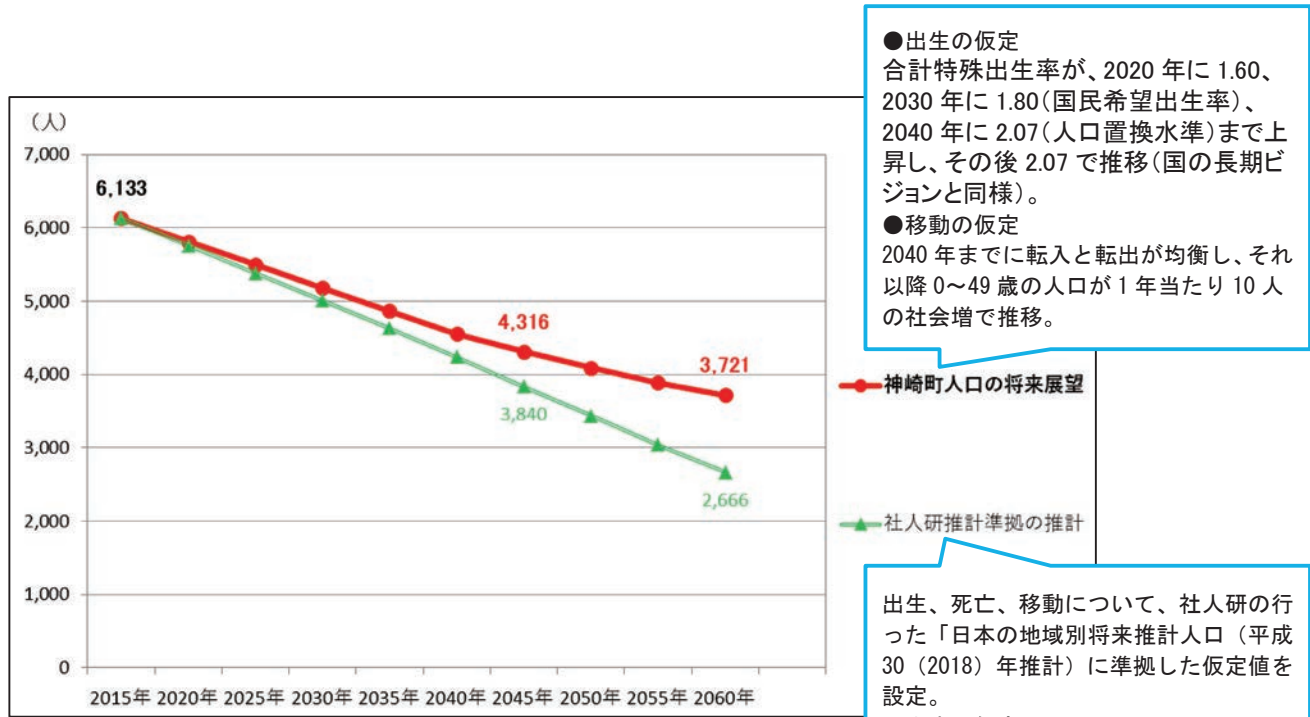
【出典】

総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

# 人口の将来展望

## 人口の将来展望

本町においては、人口減少対策に町一丸となって取り組むこととし、厳しい条件ではあるものの、下記の仮定を設定した推計を将来展望の推計として採用し、2060年に総人口3,721人を目指します。



# 第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略

## (1) 第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

町では、「神崎町第4次総合計画」に掲げた神崎町の将来像「発酵の里・健康笑顔のまち こうざきーみんなで創る健康・安心・子育て応援のまちー」に基づき、これまで「道の駅 発酵の里こうざき」の開設や発酵食品産業の振興、子育て家庭の支援、健康づくりの支援など住民と行政が連携して活力あるまちづくりを推進してきました。

このような状況の中、国では、平成26年12月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を、県では平成27年10月に「千葉県人口ビジョン」及び「千葉県地方創生総合戦略」を策定し、人口減少克服に向けた取り組みを加速したことから、本町においても、国、県の総合戦略を勘案して、本町の特性に即したまち・ひと・しごとの創生と好循環を促進するために、ここに、まち・ひと・しごと創生法第10条に基づき「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。この計画は「神崎町第4次総合計画」のうち、産業振興や子育て支援など、町の人口減少対策にかかる施策についての具体的な展開方法を示す実施計画（アクションプラン）と位置づけられるものです。

## (2) 第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間

「第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間は、2020年度から2024年度までの5年間とします。

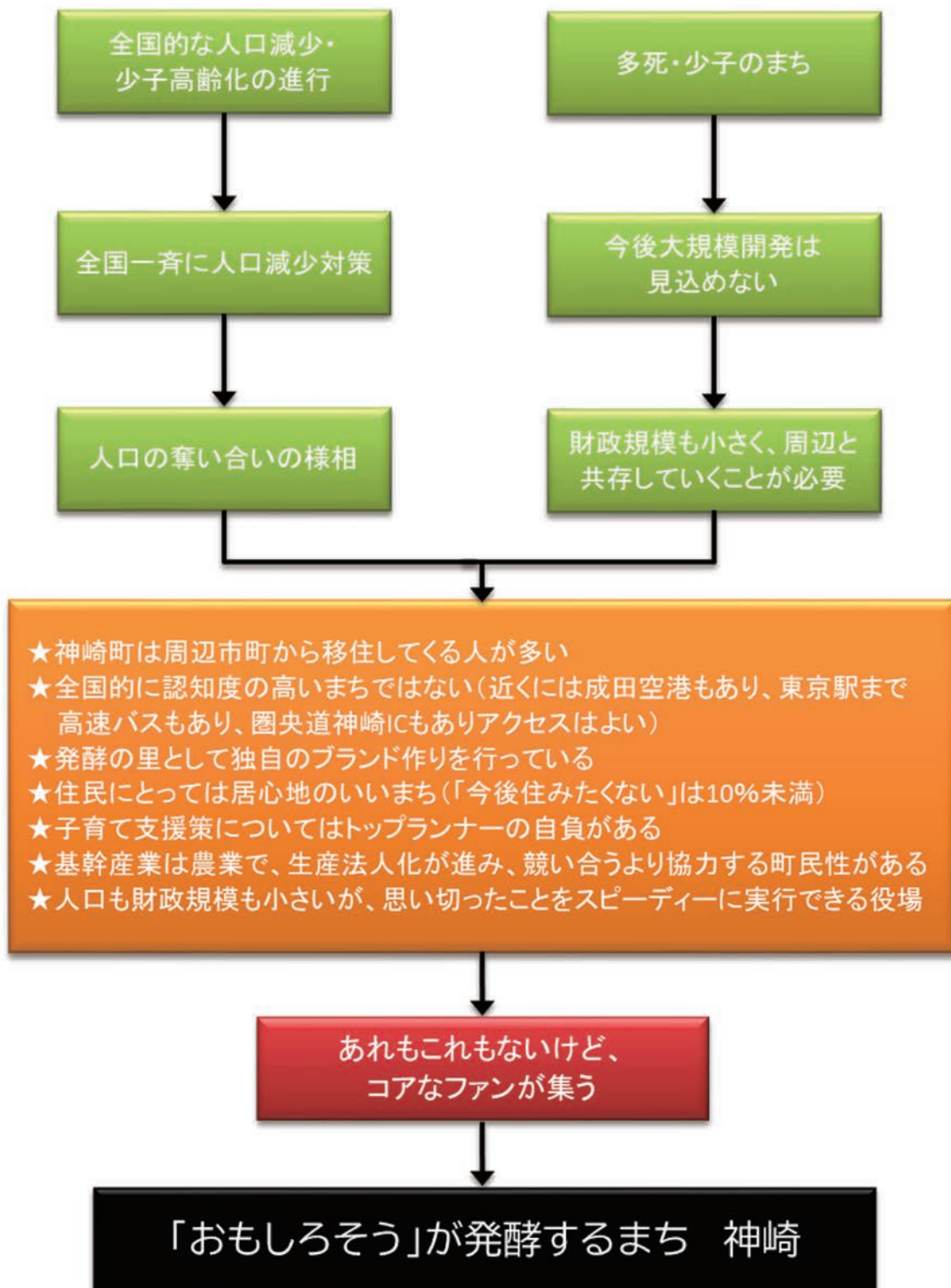
## (3) まち・ひと・しごと創生政策展開の5原則

「神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、従来の縦割りや全国一律的な手法ではなく、次の5つの政策原則に基づき施策を展開します。

- ①**自立性**……各施策で構造的な問題に対処し、地方の自立につなげる
- ②**将来性**……地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組む
- ③**地域性**……各地域の実態に合った施策を展開する
- ④**直接性**……限られた財源や時間の中で、最大限の効果を上げる施策を実施する
- ⑤**結果重視**…各施策の効果を客観的な指標により検証し、必要な改善を行う

# 戦略コンセプト

「第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、全国的な人口特性と、本町の人口特性やこれまでの人口減少対策への取組の評価と反省を踏まえて、次のようなコンセプトで戦略を推進していくこととします。



# 基本目標

「第2期神崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、4つの基本目標と基本目標達成のために11の施策を掲げます。

基本目標	基本目標達成のための施策
<p><b>基本目標1</b> 「おもしろそう」だから人が集う</p>	<p>①神崎ファンが集まるメッカをつくる (わくわく西の城の拠点化) ②発酵をキーワードにコアなファンを集めるプロジェクト</p> 
<p><b>基本目標2</b> パートナーと「おもしろそう」な人生が送れる</p>	<p>①小さいからこそできる痒い所に手が届く子育て支援 ②お年寄りや障害のある方のワクワクを支援 ③手が届くけど質は低い住宅の供給 ④神崎だから受けられる教育の推進</p> 
<p><b>基本目標3</b> 「おもしろそう」な仕事がある</p>	<p>①大変だけどおもしろい農業の振興 ②やってみたいを応援する起業支援 ③寄り道してみたくなるしかけのある商業振興</p> 
<p><b>基本目標4</b> 「おもしろそう」なまちづくりがある</p>	<p>①神崎初心者の講習 ②まちづくりおもしろアイデアコンテスト</p> 



# 施策・事業の展開

## 基本目標 1 「おもしろそう」だから人が集う

### 基本方向

神崎町には、圏央道神崎ICを降りてすぐのところに「道の駅発酵の里こうざき」があります。ここを目指してくる人も多く、寄り道する人も多く、言わずと知れた「発酵」をテーマにした国内唯一の道の駅です。神崎町には、道の駅以外にもライダースカフェや日本最古の西の城貝塚、神崎城跡、藍染め体験、酒蔵、火渡り等々、知る人ぞ知る「おもしろそう」なスポットが多数あります。万人受けしない分、詳しく話を聞いたり、体験してみたりして、仲間が集う場所があります。

仲間が気軽に集い、少し腰を落ち着けて話し合えるような場、町民かどうかを問わず神崎ファンなら利用できるメッカを作ります。

興味のある人は情報にアンテナを張っています。お金をかけて大々的にPRするよりも、ジワジワと、着実に、情報が欲しい人に届くようなPR戦略で、口コミ効果を大切にしながら独自の関係人口づくりに取り組みます。

### 数値目標

指標名	現在	目標
わくわく西の城の拠点化	—	拠点整備
道の駅来場者数	77万人（平成30年度）	90万人（令和6年度）

## 施策 1 神崎ファンが集まるメッカをつくる（わくわく西の城の拠点化）

事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○わくわく西の城拠点整備事業 子どもや高齢者の集う場所、災害対応拠点、発酵体験、お試し移住、コワーキングスペース <sup>1</sup> 等の各種機能を兼ね備えた拠点整備	まちづくり課	拠点の整備	未着手	着工

## 施策 2 発酵をキーワードにコアなファンを集めるプロジェクト

事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○道の駅関連周辺整備事業 ・ハイウェイオアシス整備 ・道の駅周辺企業誘致事業 サービス業を主とした企業誘致を検討し、観光交流人口の増加及び滞在時間の延長を図る。	まちづくり課	道の駅来場者数（年間）	77万人（H30）	90万人（R6）
○発酵マラソン推進事業	教育委員会	参加者数	2,000人（R2）	5,000人（R6）
○観光集客事業	まちづくり課	観光入込客調査（年間）	85万人（H30）	100万人（R6）
○発酵によるまちづくり推進事業 発酵体験、発酵カレンダー作成、発酵定食による地域活性化、「Hakkoの学校」プロジェクト、発酵とテクノロジーを掛け合わせたハッカソン <sup>2</sup> 「発酵ソン」プロジェクト	まちづくり課	発酵体験者数（年間）	500人（R元）	700人（R6）

1 共同利用型の仕事環境を実現するために用いられる場所のこと。

2 コンピューターに習熟した人が技術力を生かしてプログラムの改良やソフトウェア開発を行うことを意味する「ハック」と、長距離走の「マラソン」を掛け合わせた造語。エンジニアやデザイナー、クリエイターなどがチームを組んで、定まった期間内にアプリケーションを開発するイベントのことを指す。

## 基本目標 2 パートナーと「おもしろそう」な人生が送れる

### 基本方向

神崎町は、パートナーと楽しむことを日々の小さな幸せとしてかみしめられるような生活を送れるまちを目指します。子どもがいればなお楽しめるような環境づくりを推進し、子育てを楽しむ大人を見て、子どもたちも神崎町で子育てしたいと思えるようにしていきます。

小さな町だからこそ行き届いた子育て支援サービスが充実し、安全面や住居面、教育面など多岐にわたり町全体で子どもを見守る環境づくりや意識づくりをしていきます。そのためには、子育て世代だけでなく、高齢者や障害者、外国人など、分け隔てなく住民皆が健康でいられる環境づくりも重要です。

いつまでもパートナーとおもしろそうな人生が送れる環境をつくります。

### 数値目標

指標名	現在	目標
中学生までの子どもと移住してくる世帯数(年間)	14 世帯 (平成 30 年度)	20 世帯 (令和 6 年度)
健康寿命	84.4 歳 (平成 27 年度)	85.0 歳 (令和 6 年度)

### 施策 1 小さいからこそできる痒い所に手が届く子育て支援

事業名/事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○子育て支援センター設置事業	保健福祉課	設置	—	設置
○保育所入所児保育料無料化事業	保健福祉課	利用者数 (年間)	137 人 (R 元)	140 人 (R6)
○学校給食費助成事業	教育委員会	児童・生徒数 (年間)	345 人 (R 元)	350 人 (R6)
○子育て支援費給付事業	保健福祉課	対象者 (年間)	71 人 (H30)	80 人 (R6)

### 施策 2 お年寄りや障害のある方のワクワクを支援

事業名/事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○循環バス運行事業	まちづくり課	利用者数 (年間)	9,574 人 (H30)	14,000 人 (R6)
○福祉タクシー事業	保健福祉課	利用者数 (年間)	147 人 (H30)	180 人 (R6)
○高齢者教室事業	保健福祉課	参加者数 (年間)	1,220 人 (H30)	1,400 人 (R6)
○高齢者買い物支援事業	まちづくり課	利用者数 (登録)	10 人 (R 元)	40 人 (R6)

### 施策 3 手が届くけど質は低くない住宅の供給

事業名/事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○空き家バンク事業	まちづくり課	契約成立件数 (累計)	—	10 件 (R6)
○移住定住奨励金交付事業	まちづくり課	交付対象世帯転入者数 (年間)	17 人 (H30)	20 人 (R6)
○住宅リフォーム補助事業	まちづくり課	利用件数 (年間)	0 件 (H30)	10 件 (R6)

## 施策4 神崎だから受けられる教育の推進

事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○食育・発酵体験事業 大豆から育てるみそ仕込み体験、 田植え・稲刈り体験、学校給食における 地産地消	教育委員会	学校給食における 地元食材品目	5品目 (R元)	10品目 (R6)
○通学合宿事業	教育委員会	参加者数	20人 (R元)	25人 (R6)
○図書室運営事業	教育委員会	貸出冊数 (年間)	17,843冊 (H30)	20,000冊 (R6)

## 基本目標3 「おもしろそう」な仕事がある

### 基本方向

神崎町には工業団地もあり、農業生産法人もあり、高速自動車道の利便性が高い流通の適地でもあります。しかし、交通の利便性は一朝一夕に変化させることができるものではありません。交通弱者に配慮した交通手段の仕組みづくりなどに取り組むとともに、農業や商業・サービス業など、まちの活力を生み出す仕組みづくりを推進します。

また、限られた土地や資源の中で、町内に立地している企業等の留置のための方策を検討するとともに、起業支援を推進し、自立的な地域経済の発展に努めます。

### 数値目標

指標名	現在	目標
農業産出額	10.2億 (平成29年度)	11億 (令和6年)
起業数 (累計)	—	3件 (令和6年度)

## 施策1 大変だけどおもしろい農業の振興

事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○スマート農業の促進	まちづくり課	取り組み面積	80ha (R元)	100ha (R6)
○農地集積・集約化事業	まちづくり課	集積率	57.9% (R元)	60% (R6)
○新規就農総合支援事業	まちづくり課	新規就農者数 (年間)	0人 (R元)	1人 (R6)

## 施策2 やってみたいを応援する起業支援

事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○起業・創業支援事業	まちづくり課	起業支援数 (累計)	—	3件 (R6)
○サテライトオフィス立地企業の支援	まちづくり課	サテライトオフィス数 (累計)	—	1企業 (R6)

## 施策3 寄り道してみたくなるしかけのある商業振興

事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○発酵定食による地域活性化【再掲】	まちづくり課	スタンプラリー景品 獲得者数 (年間)	—	20人 (R6)
○キャッシュレス決済の環境づくり	まちづくり課	キャッシュレス決済 導入商店数 (累計)	—	5店舗 (R6)

## 基本目標 4 「おもしろそう」なまちづくりがある

### 基本方向

神崎町は人口6千人ほどの小さな町です。

住民と役場の関係も近く、顔の見える行政運営を行っています。

日々変わるニーズや困りごと、もっと改善すべきことなどを役場が今まで以上に吸い上げて、関係者を巻き込みながら迅速に対応していくことが、住民にとって居心地の良い町になると信じています。まちづくりは役場だけで担うのではなく、住民や関係団体、企業、教育、ボランティア等々多くの人に関わっています。だからこそ、仕方なくやるのではなく、皆とワイワイ言いながら楽しんでまちづくりを行っていきたいと思います。一人が動けば皆が動き、良いアイデアを称賛しあう、「おもしろそう」が集まるまちづくりをこれからも推進していきます。

### 数値目標

指標名	現在	目標
ふるさと納税額	4,500 千円 (令和元年度)	6,000 千円 (令和6年度)

### 施策 1 神崎初心者の講習

事業名／事業概要	担当課	KPI	基準値	目標値
○ふるさと納税の推進	総務課	納税額（年間）	4,500 千円 (R 元)	6,000 千円 (R6)
○情報発信事業 HP や SNS による情報発信	まちづくり課	ツイッター フォロワー数	280 人 (R 元)	1,000 人 (R6)
○生涯学習推進事業	教育委員会	講座数（年間）	3 講座 (R 元)	6 講座 (R6)

### 施策 2 まちづくりおもしろアイデアコンテスト

#### 施策推進方針

神崎町はまちづくりのコンテストを行っているわけではありません。

おもしろいまちづくりのアイデアを協力して取り組む住民をたくさんつুক্তていきたいのです。そのためには、まちづくりを楽しみ、アイデアを出し合い、賛同する者同士が協力しあいながら、まちづくりを住民と協働で担っていきます。

道路の整備一つとっても、ハザードマップ作り一つとっても、役場が決まりきった方法で実施するよりも、住民と協力しながら創意工夫を交え、自分たちのふるさとを子どもや孫に良い形で引き継いでいくための意見交換を積極的に推進していきます。

#### 第2期 神崎町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略概要版

発行日：令和2年3月

編集・発行：神崎町まちづくり課

〒289-0292 千葉県香取郡神崎町神崎本宿163番地

TEL：0478 72 2111 FAX：0478 72 2110

URL：https://www.town.kozaki.chiba.jp/